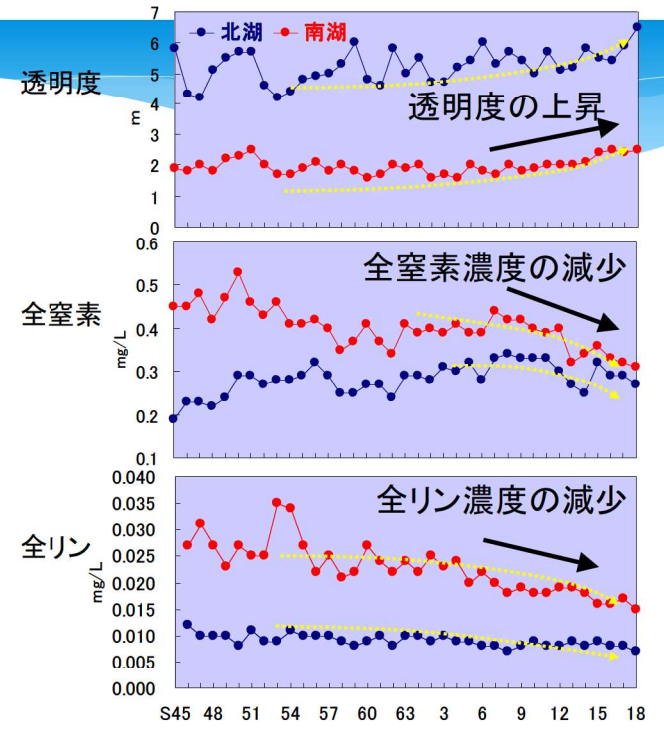
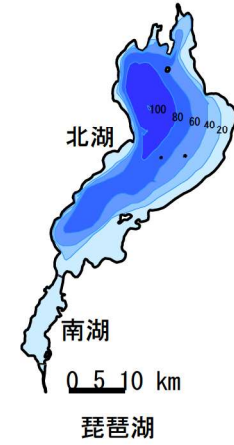




水質の現状①



これらの水質項目には改善傾向が見られる

外来魚の増加 Increase of alien fishes



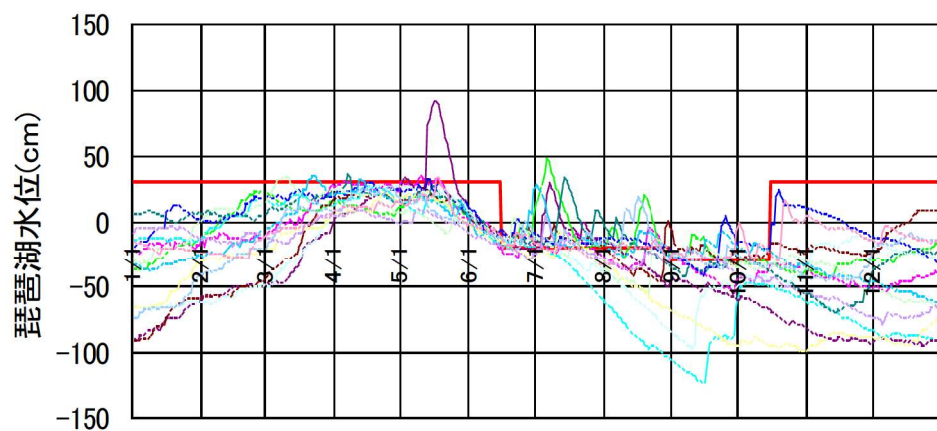
カワウの増加 Increase of Great Cormorant *Phalacrocorax carbo*



水草の増加 Increase of biomass of a submerged macrophyte community



操作規則策定後の水位動向



- 操作規則 — 平成4年 — 平成5年 — 平成6年 — 平成7年
- 平成8年 — 平成9年 — 平成10年 — 平成11年 — 平成12年
- 平成13年 — 平成14年 — 平成15年 — 平成16年 — 平成17年

魚類主要10種の漁獲量変化

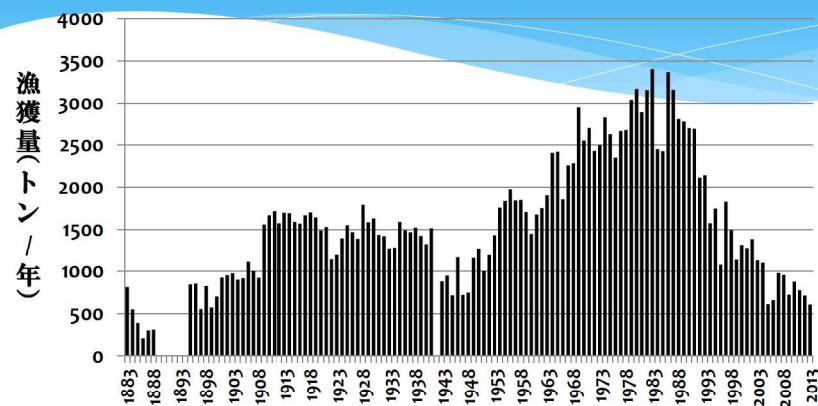


図 琵琶湖の主要10種の漁獲量合計
(コイ・フナ・ビワマス・ホンモロコ・ウナギ・
アユ・ハス・オイカワ・イサザ・ウグイ)

アユの漁獲量変化

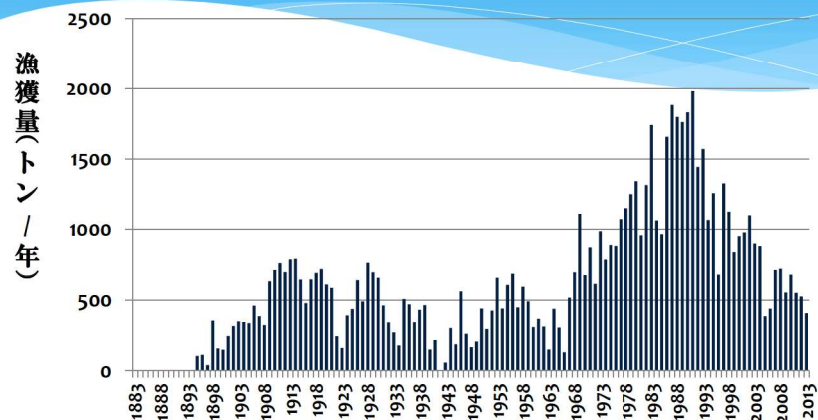


図 アユの漁獲量

フナ類の漁獲量変化

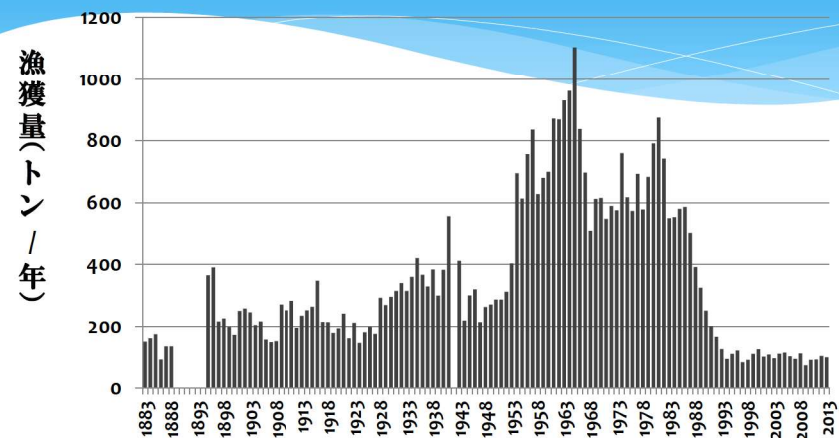


図 フナ類の漁獲量

ホンモロコの漁獲量変化

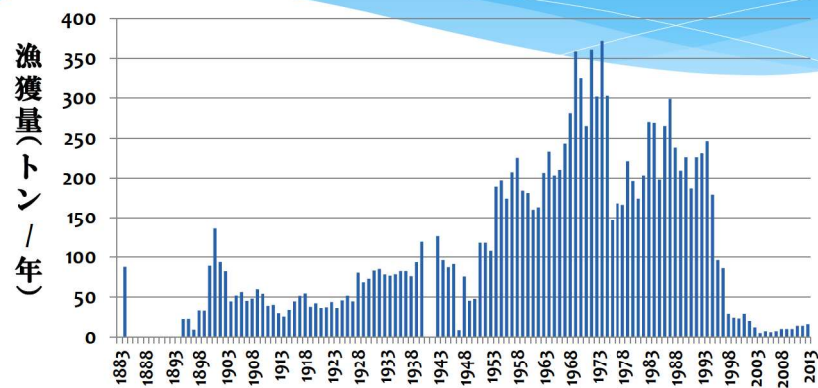


図 ホンモロコの漁獲量

ビワマスの漁獲量変化

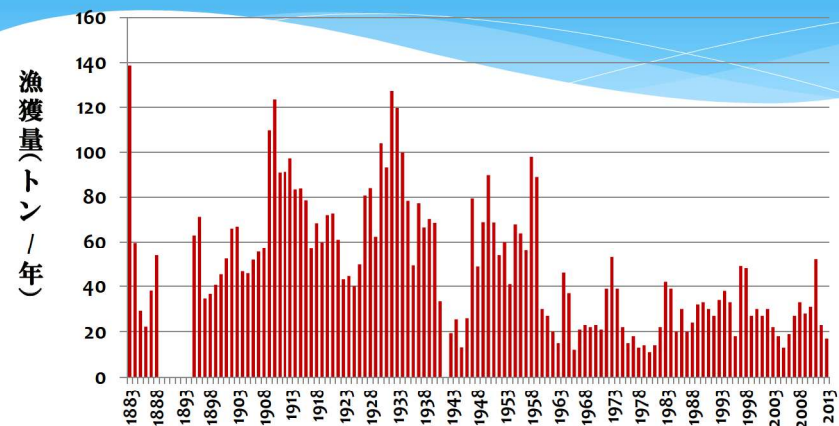


図 ビワマスの漁獲量

セタシジミの漁獲量変化

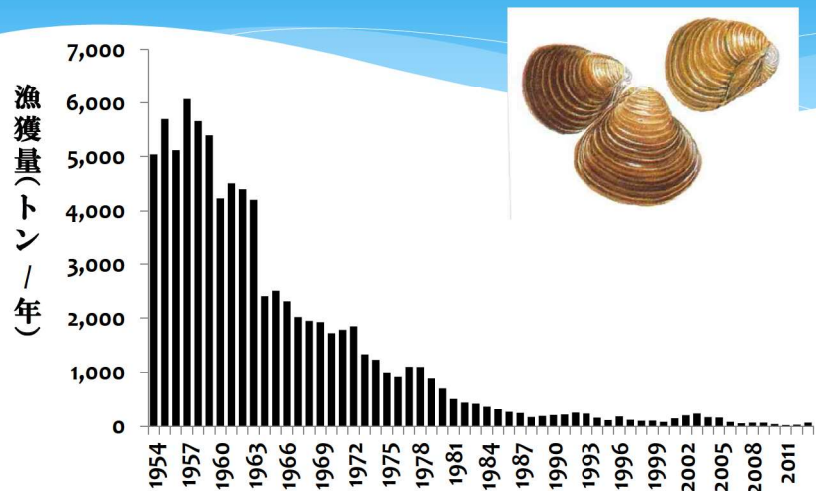


図 セタシジミの漁獲量

絶滅危惧種: 赤塗				
ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種	ヌマムツ		ドジョウ
	スナヤツメ南方種	アブラハヤ		アジメドジョウ
ウナギ科	ニホンウナギ	タカハヤ		シマドジョウ
アユ科	アユ	ウグイ	ドジョウ科	ピワコガタスジシマドジョウ
サケ科*2	ヤマトイワナ	モツゴ		オオガタスジシマドジョウ
	サツキマス(アマゴ)	アブラヒガイ		ホトケドジョウ
	ピワマス	カワヒガイ		ナガレホトケドジョウ
コイ科	コイ	ピワヒガイ	ギギ科	ギギ
	ゲンゴロウフナ	ムギツク	アカザ科	アカザ
	ギンブナ	タモロコ	ナマズ科	イトコナマズ
	ニゴロブナ	ホンモロコ		ピワコオオナマズ
	ヤリタナゴ	ゼゼラ		ナマズ
	アブラボテ	ヨドゼゼラ	メダカ科	ミナミメダカ
	カネヒラ	カマツカ	トゲウオ科	ハリヨ
	イチモンジタナゴ	ツチフキ	ドンコ科	ドンコ
	シロヒレタビラ	ズナガニゴイ		ウキゴリ
	ニッポンバラタナゴ	コウライニゴイ	ハゼ科	イサザ
	ワタカ	ニゴイ		カワヨシノボリ
	カワバタモロコ	イトモロコ		ピワヨシノボリ
	ハス	デメモロコ		オウミヨシノボリ
	オイカワ	スゴモロコ	カジカ科	カジカ
	カワムツ	アユモドキ		ウツセミカジカ
天然記念物: 灰色		絶滅危惧種: 赤色		

まとめ

- * 琵琶湖にはその歴史と多様な環境を背景に、さまざまな生物が生息し、固有種の数も多い
- * 琵琶湖の周辺では、1万年以上も前から琵琶湖の魚介類を捕獲して人々が豊かな生活を営んできた
- * 琵琶湖の魚類を捕獲するため、エリをはじめさまざまな漁具・漁法が考案され、現在に伝えられている
- * 鮒ずしを代表とするさまざまなナレズシが今も传承され、琵琶湖の魚介類を用いた多様な食文化が生み出された
- * 現在の琵琶湖は開発などにより生物が減少し、多くの種が絶滅の危機に瀕している